

一般常識講義⑤2005-2017

関連動画

平成の大合併

<https://www.youtube.com/watch?v=n9VUMNB7CD8>

夕張市財政破綻

<https://www.youtube.com/watch?v=01jw6mwXgpk>

リーマンショック

<https://www.youtube.com/watch?v=Fmkp6ICAt-s>

ギリシャ危機

<https://www.youtube.com/watch?v=qzmFRPgRXW8>

上海万博（中国語）

<http://www.youtube.com/watch?v=vg2-D0D98p4>

TPP 問題

<https://www.youtube.com/watch?v=tMJNH69MKrw>

アラブの春（カダフィ大佐）

http://www.youtube.com/watch?v=Wi_xm0vtFTE&feature=related

ねじれ国会

<http://www.youtube.com/watch?v=TF0m80CFUAI>

オスプレイ配備

<http://www.youtube.com/watch?v=AhQIYEa7rPY>

財政危機

<https://www.youtube.com/watch?v=9E6Cs gSwlME>

イスラム国

https://www.youtube.com/watch?v=_mQkUVdVfjg

格差社会

<https://www.youtube.com/watch?v=wJdts ykpX14>

COP21 パリ協定

https://www.youtube.com/watch?v=nnpS0_mL00Y

シリア内戦

https://www.youtube.com/watch?v=WuKKQhc_Uhg

シリア難民

<https://www.youtube.com/watch?v=rBqWJXweAHA>

英国 EU 離脱

<https://www.youtube.com/watch?v=5bW4vaWwOFY>

オバマキューバ訪問

<https://www.youtube.com/watch?v=T5Vog0VI160>

伊勢志摩サミット

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg13405.html?nt=1>

TPP

<https://www.youtube.com/watch?v=IrVpfMixi6s>

グテーレス

<https://www.youtube.com/watch?v=sVFGzhFbK-I>

高田の独り言

道州制導入と九州

九州は地理的、文化的、言語的、そして気候的にも日本のその他の地域と比べて比較的均質性を保ってきたといえます。実際には九州各地の人々がよりどころとするアイデンティティは異なるにもかかわらず、関東や関西で九州人同士が集まると非常に親近感があるといえます。

さて、その九州7県、場合によっては沖縄を含んだ8県が、道州制の前哨戦ともいえる「総合特区」として、インバウンド誘致という共通の利益を狙っています。特に中韓にはない煙たなびく活火山として、阿蘇山、雲仙、桜島などが、また世界への窓口として活躍した史跡としては、長崎市や平戸市、博多区などが、テーマパークとしては宇宙体験のできる北九州のスペースワールドやオランダの街並みが自慢のハウステンボスなど、そして温泉なら別府に武雄、雲仙など枚挙にいとまがありません。



↑アジア系観光客であふれるハウステンボス

しかしこれらはみな7県にばらばらに点在し、共通のキャンペーンが行いにくくなっています。そこで九州を総合特区に指定し、共同戦線で海外にその魅力をアピールしようというのです。ただ、そのため九州の通訳案内士に限っては単純な研修を受けるだけでできるようにしようという計画を策定したため、通訳案内士諸団体から大きな反感を買いました。また九州だけで

なく東北でも関西でも、同じような動きが進んでいます。規制緩和と地方自治の折り合いがなかなか難しいところです。

現代日本の問題解決の糸口は

島根にあり！

私の故郷、島根県には日本の抱える矛盾や問題点が詰まっています。「現代日本の抱える問題について考えたいなら島根県に行こう！」といたいぐらいです。

まずは人口。1950年代に90万以上いた島根県の人口は、現在約70万人で、鳥取県に次いで少ないのです。それでいて高齢者の比率は約3割と、2011年まで日本一でした。すなわち高齢化と過疎化の進行が日本一著しい県といえるでしょう。

財政破綻寸前の「パラサイトシングル」県

そして2000年代以降の三位一体の改革により、国からの補助金や地方交付税交付金の大幅な減額がなされました。2005年、すなわち私が東京に拠点を構える1年前、地元の島根県安来市役所に行ったところ、夏であるにもかかわらずエアコンは入らず、照明は消えていました。国からの「仕送り」減額がこのようにところに反映されていたのです。

また、人件費削減のため、このころから正職員としての公務員の募集を減らし、行政や外郭団体の職員の多くが臨時職員になっていきました。島根県内では公務員や団体職員を除くと、電力会社、農協（JA）、地銀ぐらいしか公務員に匹敵する収入が保証される職場はないのが現状です。しかし臨時職員の場合、その収入は、公務員の初任給にも満たず、「官制ワーキングプア」という状況が生まれました。同じ職場で同じような仕事をしながら、三十代の職員の年収差は二倍以上なのです。しかも一年契約ですので生活は安定せず、これでは結

婚なども考えづらいという二十代、三十代が多いのも無理はありません。そのため親から経済的自立ができない若者も多く、30代になっても未婚で両親のもとに住み続ける「パラサイトシングル」がかなりいました。（何を隠そう、この私もその一人でした）そしてこのようなワーキングプアが増えることにより、島根県の税収も大幅に低下しているのです。

実際、島根県の自主財源率は全国最低で、なんと1割！すなわち県内で年間に使われる財源の9割は国からの「仕送り」いうことです。地方自治における自主財源というのは、子どもが親のすねをかじらずにどれだけ小遣い稼ぎができるかというようなものですが、島根県民のみならず、島根県という自治体そのものが国に対して「おんぶにだっこ」、経済的な自立は全くできていない「パラサイトシングル状態」なのです。これを財政破綻といわずして、なんなのでしょうか。

一方、島根県の失業率は全国平均の半分ほどの2%強で、これは福井県について二番目の低さです。しかし島根県が雇用面で安定しているような錯覚をしてはいけません。県内にはフリーターができるような店が限られているし、職場を何らかの理由で解雇されたら県外に職場を求めるのが一般的なのです。ひとたび県外に出て住民票を移せば、その人は島根県民ではなくなるため、数字上の失業率はきわめて低いのです。

「高齢者天国」島根県

ところで島根県の抱える最も大きな問題は高齢化だと思いますが、これはまさに東京都の数十年前を先取りしています。どこに行っても老人だらけ、「老人天国」とでも形容できそうなほど老人の多さが目立ちます。

1998年に町内の氏神様の遷宮がありました。25年ぶりのことで、町内中の氏子が集まり、盛大におみこしを担ぎました。昼の日中から我々「若い衆」はみこしの練り歩きのコース上にある家に押し入っては「酒を飲ませろ！」と酒を強要し、酒が出たら「つまみはないのか！」とどなります。我々は神様を担いでいるので、乱暴狼藉も神様のお墨付きなのです。その時27歳だった私はかなり若いほうでした。周りの「若い衆」をみると、過半数が40代から50代前半なのです。当時50歳の父親も一緒に神輿を担ぎました。



↑氏子たちに守られてきた山奥の神社（出雲市）

それはそれで楽しい思い出として残りましたが、あれから15年たった正月に例の氏神様にお参りし、あのとき一緒にみこしを担いだ「若い衆」が、高齢者入り、または高齢者直前になっていることに改めて気づきました。正月なので境内にはそれなりに人がいるのですが、この15年で町内に子供は少ししか生まれなかったため、子どもの数は多くありません。また、15年前に70代だった祖父たちの世代は、すでにこの世にいません。そして私のように町内を離れた「若い衆」も少なくありません。そのような中で私のような「若い衆」が歩いていると、「あーはどこのわけすかいの（あれはどこの若い衆だろう）」というような目で見られるのです。うちの町内では「若い衆」が好奇心の対象になるぐらい、少数派なのです。

二十代のころに島根県で過ごした仲間

たちのうち、数人が東京に住んでいます。時々うちに来て近況を語るのですが、そのとき共通して感じるのが、故郷を離れたことに対する後ろめたさです。故郷にいたころには県や市町村に対する悪口だらけだったのに、東京に住むと不思議なことにそのようなことは言わなくなり、「東京に住みつつ郷土のためにできることはないか」ということについて話し合うようになりました。

そんなときにできたのが「ふるさと納税」です。住民税の一部が指定した自治体に納税できると聞き、永田町の都道府県会館に概要を尋ねに行きました。ただ、やりかたがかなり複雑なため、今に至るまで実行しておりませんが、今年はぜひとも挑戦しようと思っています。

さて、つれづれなるままに島根県の現状を述べてきましたが、①若年層の就業問題、②財政破綻、③高齢化、④過疎化、⑤人口減少といった日本社会が直面する社会問題を、島根県にいと生活の節々から感じられます。「現代日本の抱える問題について考えたいなら島根県に行こう！」と申し上げたい所以はここにあるのです。そして近い将来、いや、もうすでに日本各地が陥りつつある問題解決の糸口が見つかるかもしれないのです。